

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

シンガポールで台頭するメガチャーチ

田村慶子（北九州市立大学法学部教授）

2019年8月、シティ・ハーベストという新興のキリスト教会創設者のコン・ヒー牧師が、2年4カ月の服役を終えて釈放された。彼と他5人の同教会関係者は、コン牧師の妻で歌手のスン・ホー氏の音楽活動のために、教会の資金5,000万シンガポールドル（約40億円）を流用したとして、15年10月に有罪判決を受けたのである。

このシティ・ハーベストはコン氏夫妻が1989年に設立、2010年には都心の国際展示・会議場であるサンテック・コンベンションセンターの一部権益を取得して、注目された。週末には、スン氏が派手な衣装で歌い、会場は大音響に包まれるという、まるでロックコンサートのような礼拝が行われ、最盛期の信者数は2万8,000人に上っていた。事件の影響で信者は1万6,000人まで減少し、18年の献金額は一昨年に比べて49%も減少したが、それでも国内の団体として寄付金額でトップ10に入っている。



サンテック・コンベンションセンター＝19年9月（筆者撮影）

シティ・ハーベストのように、礼拝に数千人規模の信者が集まり、カリスマ性のある指導者に率いられるプロテスタント系の教会を「メガチャーチ」と呼ぶ。他にも、郊外の大型ショッピングセンター最上階の劇場を礼拝所にするニュー・クリエーションなど、メガチャーチは近年、若い世代とくに華人の若者を中心に急速に信者を増やしている。

ある社会学者はメガチャーチの信者の特徴を次のようにまとめている。

親が懸命に働いてくれたおかげで豊かになった子どもは親に感謝し、また安定した社会をもたらしてくれた国家に感謝していること、慈善活動にはそれほど関心がなく現世利益的であること、さらに、家族の絆と健康をととても重要とみなしていること、性的マイノリティーは家族の絆を破壊するとして、その権利拡大には反対していること、である。

確かに多くのメガチャーチのパンフレットには、「神に感謝するようになったら、借金がすべて返済できるようになった」「教会に通うようになったら、病気が治った」という体験が実名入りで掲載されているし、死にかけてた信者を死の淵から呼び戻すなどの「ミラクル・ヒーリング」で有名なメガチャーチもあるという。また、メガチャーチの一つチャーチ・オブ・セイビヤーは2009年3月、公立学校の性教育を担当していた非政府組織（NGO）が同性愛を擁護する教育を行ったとして、このNGOの理事会選挙に大量の教会信者を送り込んで自分たちを理事に選出し、実質的にNGOを乗っ取るという事件を起こした。

このようなメガチャーチの台頭は、超近代社会に生きるシンガポール人が自分と家族の健康、心の絆や癒しを求めていることを示している。ただ、同性愛や性的マイノリティーを受け入れないという姿勢は、国民の間に価値観の対立をもたらす可能性もあり、シンガポール社会は新たな対立の火種を抱えることになるかもしれない。

< 筆者紹介 >

北九州市立大学法学部教授。専攻は国際関係論・地域研究（特にシンガポールとマレーシアの政治、社会、ジェンダー研究）。主要業績に『多民族国家シンガポールの言語と政治：「消滅」した南洋大学の25年』（明石書店）、『シンガポールを知るための65章』（明石書店、編著）『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、共編著）、『シンガポール謎解き散歩』（KADOKAWA、本田智津絵との共著）、『マラッカ海峡：シンガポール、マレーシア、インドネシアの国境を行く』（北大出版会、編著）など。